

A. 支援プログラム

「きみ色とやま」支援プログラム

◎ 大まかな流れ「PDCAサイクル」と呼ばれる流れを原則6カ月ごとに実施。

※《P⇒PLAN（計画）》《D⇒DO（実行）》《C⇒CHECK（評価）》《A⇒ACTION（改善）》

1. 聞き取り：お子様の状況、状態把握

保護者様からの聞き取り（状況に応じてお子様からの聞き取りも）、職員によるお子様の直接観察、学校などの関連機関からの聞き取りなどを原則、実施します。得られた情報から、児童発達支援管理責任者が中心となり、直接支援する担当職員などの複数の職種・職員で支援計画を練ります。一人一人の情緒面や、身体、運動、生活、コミュニケーション、人間関係、社会性、認知行動など幅広く捉え、あらゆる個性や障害特性に応じた有効な手立てを考え、支援します。

2. 個別支援計画の作成

聞き取りに応じ、それぞれの状況や課題に合わせて支援方法、内容を考えます。支援方法は大きく①小集団支援、②職員 1～2 名程度対お子様 1 名の個別支援の 2 種類に分けられます。これを組み合わせながら、お子様に最も効果的な方法を検討します。聞き取りに基づき、個別支援計画を作成します。個別支援計画は、原案の段階で提示し、保護者様（場合によってはお子様）に説明し、修正箇所があれば修正した上で、同意を得て実施します。

3. 支援の実施

支援内容は、お子様の発達や特性に合わせ、課題を設定します。小集団、個別それぞれに課題に取り組む時間を作ります。集団の活動内では、達成基準をお子様に合わせ、出来ることから徐々に広げられるよう関わります。

当施設職員は全支援員が教員免許を有しており、かつ、多くが元教員です。多くの実戦経験に裏打ちされた様々な支援を個別に行うことを標準とし、お子様に関わります。

4. 評価の実施。

個別支援計画で作成した目標が、どの程度達成されたか評価を行います。評価は児童発達支援管理責任者を含む、実務対応している職員全員で行うことを原則としています。評価した結果から、児童発達支援管理責任者が個別支援計画内容を修正します。評価の結果、修正し個別支援計画については、再度保護者様（場合によっては、お子様にも）説明し、同意を得ます。それを職員の支援に反映させます。

B. 5 領域活動プログラム例

1. 健康・生活

毎日、来所持に検温を行い自分の体温から、体調の善し悪しを判断できるよう支援します。また、自分の持ち物の整理整頓を習慣化するため、ここに専用ボックスを与え、そこに入れるようにします。また、飲食後の歯磨きやトイレ後の手洗いなども普通にできるよう支援します。

さらに、所内の備品の整理整頓なども意識させ、集団で生活する場面でのマナーなども修得できるよう支援します。

年齢が上がるにつれ、身体にも変化が起き、心に起きる葛藤が難しくなります。頭ではどうすべきか分かっている、プライドや不安など、複雑な気持ちに混乱して行動に移せない・・・そんな気持ちに優しく受容的に寄り添いつつも善悪の判断を間違えている

場合は、短くきつく！ 後に尾を引かないような指導を心がけています。

さらに、特性に応じて「気持ちに名前を付ける」「強さに段階を付ける」「絵にして描いてみる」など、感情を客観視してコントロールする練習なども行います。

2. 運動・感覚

「緊張」「弛緩」など身体のコントロールをする練習をします。また、体の感覚や様々な感触に触れ、感覚の成長を支援します。体の動きをコントロールできると、気持ちやテンションのコントロールにも役立ちます。月曜日、水曜日、金曜日に近くの旧総曲輪小学校体育館でスポーツ活動を行っています。

3. 認知・行動

「着席」「大人をよく見る」「話を聞く」「嫌なことも頑張ってみる」等、課題に向かう学習の姿勢を支援します。「頑張ったよかった」と感じるような関わり方や内容を工夫します。また、情報を適切に処理、コミュニケーションの難しさから生ずる行動の予防方法を考えます。また、何も無い、暇な時間が辛く感じるお子さんもいます。自由時間は、自分で何をどれだけするのが決めて活動します。その中で、待つ時間や余暇の過ごし方なども一緒に考えます。

4. 言語・コミュニケーション

「要求」「報告」「聴く」「模倣」「観察する」など、自分も周りも大切にするコミュニケーションを学びます。言葉だけでなく、ジェスチャーやカード等、子どもに合った方法を一緒に考えます。暴力や暴言など、社会的には不適切とされる行動も、子どもにとっての何らかの問題に「対処している行動」と捉えることが出来ます。どんな問題に対処しようとしているのか、丁寧に観察しつつ、社会的にも適切な行動を考え工夫し、支援します。

5. 人間関係・社会性

社会性の習得を目指します。社会性を習得するための集団遊びや友だち遊びでは、「やって良かった」「楽しい」と感じるなど、良い体験となるように様々な設定を考えています。集団での活動や、友だちとの関わりを通して実践的に学び、社会性を身につけます。また、人としての基本的な「挨拶」「ルール」「マナー」「礼儀」「感謝」「謝罪」など社会生活で活躍するスキルを身につけます。「友人」「目上」「協力」「対立」など、集団で発生する様々な人間関係において、相手も自分も大切にしたい行動を選択できるように、一緒に考えます。